

## 事務局だより

2023年11月30日現在 会員数 639名

## 賛助団体 8団体 (敬称省略)

- ・社会福祉法人 生活クラブ 生活クラブ風の村 特養ホーム八街
- ・社会福祉法人 翠耀会 特別養護老人ホーム グリーンヒル
- ・東洋羽毛北関東販売 株式会社
- ・社会福祉法人 九十九里ホーム 障害者支援施設 聖マーガレットホーム
- ・社会福祉法人 広寿会 特別養護老人ホーム いすみ苑
- ・株式会社 ジェイシー教育研究所
- ・社会福祉法人 オリーブの樹 オリーブハウス
- ・医療法人社団 一心会 初富保健病院 初富保健病院介護医療院

承諾を得て団体名を掲載させて頂きました。

いつも本会運営についてご理解、ご協力を頂きまして、心より感謝申し上げます。

会員の皆さん、日介ニュースでもお知らせしていますが、今まで研修時にお渡ししていた「研修ポイント」を記載した紙シートは終了しました。現在は、ケアウエルの研修ポイント履歴で確認できます。ケアウエルは気になる最新情報や日本介護福祉士会主催の研修会等を確認できますので、是非ご活用ください。

(事務局長：高橋)



## 令和6年度 役員改選

令和6年度は「役員改選」の年です。任期(2年)中は、理事としてブロックや委員会活動の企画や運営に携わり、介護福祉士の育成や県民の福祉増進に寄与する役割を担います。興味のある方は理事候補者募集要項をご確認いただき、必要書類を添えてご提出ください。

熱意のある皆様の、多くの立候補をお待ちしています！！

## 一般社団法人 千葉県介護福祉士会

〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-5 千葉県社会福祉センター5階

TEL: 043-248-1451

FAX: 043-248-1515

事務所の電話受付は平日の9~16時となっております。時間外及び土・日・祝日に開催される研修会等のお問い合わせについては、留守番電話にて対応しております。

E-MAIL: kai5niji@poem.ocn.ne.jp

知りたい情報等ありましたら、上記メールアドレスにお知らせください。



千葉県介護福祉士会 ホームページ:

<http://care-net.biz/12/kai5chiba/>

千葉県介護福祉士会 facebook

[https://www.facebook.com/千葉県介護福祉士会-](https://www.facebook.com/千葉県介護福祉士会-1866986893408630/)

1866986893408630/



niji

千葉県介護福祉士会 会報 にじ

Vol.126

2023年12月11日発行



令和5年10月8日(日)  
介護カフェ特別企画「カイゴカフェ de ボッチャ」を千葉県社会福祉センターで開催しました。(啓発相談委員会/千葉・内房ブロック共催)  
コロナ禍で、事業所や施設においてリハビリや活動を自粛していた時期が過ぎ、少しずつ以前の状態に戻つつある中で、誰でも行えるアクティビティとして『ボッチャ』の基礎から体験することができました。

カイゴカフェ(グループトーク)の時間では、「ボッチャを知ってはいいたが、基礎から学べて良かった。」「楽しく参加できた。」「利用者にも施設で体験してもらおうと思う。」「他施設の方とのコミュニケーションがとれて良かった。」というポジティブな意見が多く出ていました。  
改めて自分の施設のレクリエーションやアクティビティを見直す機会にもなり、貴重な時間になりました。  
次回の2/25(日)には第2回の開催を予定しています。



## ボッチャとは?

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

ヨーロッパで生まれたボッチャは、重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

(一般社団法人日本ボッチャ協会HPより)



# 令和5年度『介護の日』記念講演会 KAiGO PRiDE in CHiBA

令和5年11月26日（日）ホテルニューオータニ幕張にて



1部 トークセッション  
「介護・福祉の未来は明るいのか？」  
マンジョット・ベディ氏  
×  
石本 淳也氏

介護 × creative  
「何か面白いことをしようよ」

**石本** マンジョットさんは「日本の介護はすごく魅力的なのに、国の中で何で知られていないだろう」って思っていたし、僕は介護の良さが上手く発信できていないし、その介護職自身が「介護を良く言わないのはどうしてだろう」って思っていた。それを発信したい。

**マンジョット** 介護の現場でいろいろと感じたことは、日本の介護の中に課題はあるんだなと思った。

日本の良さはおもてなし、人のことを思う心。実は介護はまったくそうなんだよね。人のことを思う気持ちから始まる。大切に思うこと。

介護の説明は日本の説明になるんだな。

**石本** 介護の仕事を変現するとき、3K・5K（きつい・汚い・給料安い）と表現されることが非常に多くある。これを何とかポジティブに切り替えられないかなと思っている。

皆様も様々なお立場で介護業界で関わっておられて、ほんとに嫌だったらとつに辞めているんだと思う。そこに自分なりの何か、やりがいとか面白味、楽しさがあるから続けているんだと思う。

多くの仲間が何らか、自分なりの魅力をつかんでいるはずだから、ネガティブをポジティブにマインドをシフトすることがすごく大事。

自分たちの言葉で自分たちの内側からちゃんと表現することが大切じゃないかな。

**マンジョット** 今いらっしゃるケアワーカーさんが自分から表に出て、自分から発信していく。

現場がわくわくキラキラしていることを発信できればと思っている。

人間は必ず年を取っていく。介護が関係ない人はいない。必ずどこかのタイミングで、家族や自分が関わってくる。

自分で「とてもいい仕事をしているんだ」と思うことが大切だと思う。セルフレスペクトがまだまだ足りてない。

とにかく「介護はカッコいい」。

単純に見た目ではなく、一人一人の考え方が、マインドが、気持ち「カッコいい」。やることが「カッコいい」。

**石本** 介護職が世の中から低く見られていたり評価が高くない。そもそも自分自身がその仕事を評価しているのか？

ネガティブなほうの感覚をポジティブに変えなくてはならない。



2月22日は  
KAiGO PRiDO DAY

発信って年に1回だけでいいのか？

食べ物を食べるときに、「30何回よく噛んで飲み込みなさい」と言われている。同じように、言って言って、何回もやるからこそ残る。

一番どこが中心なの？

水に石を投げると、波紋は真ん中からしか広がっていかない。

介護業界の中心はなんなの？と考えると、建物や行政が考えるシステムでも、ケアワーカーがやっていることではない。皆さんの中にある「自分・i」なんです。

KAiGO PRiDEのロゴ中に小文字の「i」がある大きな理由です。

ひとり一人、皆さん自分の中にある、ここにあるスイッチが一つ入ることによって感じるんです。出るんです。

KAiGO PRiDEのコンセプト

「誰もが安心して年をとれる世の中を」というのがまずあって、それを実現するためにはケアワーカーがプライドをもって仕事に邁進する世の中を作るとするのが大事。そのためにはやらなきゃならないことはいっぱいあって、制度的には処遇改善等で後押し、イメージを変える・広く知ってもらうためには、スーパークリエーターのマンジョット・ベディという力を使って、何か社会にインパクトを与えるような活動ができればと考えています。

介護に対する魅力・やりがい

**小川** 小さな「ハッピー」が毎日あちこちにある仕事だなと実感している。

その方の好きなこと、気持ちを汲み取りながらできるだけその方が最期、よい人生だったなとか悔いはない・やり残したことはないと思うようなお手伝いをしてあげられる仕事だと思っている。

**鈴木** それぞれゴールがあり、向かい方はそれぞれ違っても、そのゴールに向かって手伝っていく。

**井上** 喜ぶ姿を一緒に共有できるっていうことが、魅力ややりがいかなと思う。

些細な事、その人の気持ちを上げることとかやる気を出させることも「寄り添う」ってことでやりがいを感じる。

お互い支えあってやっていけるというのが介護の魅力かな。

背中を押す一言

**小川** 「やりたい」という気持ちがあれば、年齢にこだわらずできるのもこの仕事だなと思います。楽しんで仕事できています。

**鈴木** 介護は手助けしてお金をもらえる。すごくないですか？しかも褒めてもらえる。これ最高じゃないですか？

人助けて自分にとってすごく簡単なことからやって喜んでもらえる。「介護」って仰々しいんじゃないか、「人助け」って考えたら、もっと気楽に、「ちょっとやってみようかな」って思えないかなって自分は思います。

いろんな人とかわりができるから、単純に「いっぱい友達ができるよ」って伝えたいです。

**井上** 介護の仕事は、難しく考えることはないかなっていう風に思っています。

いろんな特技を活かしながら、お互いの足りないところで支えあって助け合っというのが、どの場面でも活かしやすいのが介護の仕事なんじゃないかなと思っているので、少しでも興味があったら挑戦してもらいたいというのが本当にあります。

大変な事とか辛いことの方が多くても、楽しいって思える瞬間を味わうと、この仕事って長く続けていけるんじゃないかなっていう風に思っていて、マイナス的じゃなくて「楽しい」ってプラスなことに変わっていくんじゃないかな。



2部 トークセッション  
「介護職の誇り」  
小川 千晴氏  
鈴木 祐介氏  
井上 留美氏

ここだけはこだわっている

**小川** 一つ目は「こんな病気だからこんな状態だ」というような決めつけをしないで、「こんなことをしてる時に穏やかな表情をしているかな」とか、どんな時にふっと笑顔がでるかなとかそういったことをよく観察するようにしています。

二つ目は、お話を聞くときに、その方が何を言っているかよりも「何を言いたいのか」っていうこと、心の声というかそういうのをよく考えながら、目と耳と心で「聴く」。私の心をその方にしっかり向けお話を聞くようにしています。

三つ目は、その方の本音を引き出していききたいので、いい加減じゃないですけども肩の力を抜いて接するように心がけています。

**鈴木** 一番のこだわりは「利用者と一緒に何かをすること」かなと思っています。

楽しいこともそうだけど、悲しいときも一緒になり困ったときも一緒に悩んだり、利用者さんから選ばれるというか、一緒に何かするにしても選ばれたい。

そのために、まずは関係性を作ることすごく大事にしています。

**井上** 必ず1日1回笑ってもらうのを心がけていて、純粹に笑いあえると、楽しめるというのもお年寄りの世界というか介護の仕事でも当たり前のことかなと思っていて、自分から挨拶するっていうのは意識してやっています。1番最初はまず「覚えてもらう」っていうところからスタートかなって、こだわりでずっとやっています。